

定例記者会見資料



○日 時	平成23年4月13日（水） 13時30分～
○会 場	島根県立大学 本部棟2階 特別応接室
○会見者	本田雄一 理事長・学長
○会見項目	<p>【全キャンパス共通】</p> <ul style="list-style-type: none">・平成23年度公立大学法人島根県立大学重点項目……………【資料1】・平成23年度公立大学法人島根県立大学当初予算の概要……………【資料2】 <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none">・「浜田キャンパスサポーター制度」の創設及び募集について ……【資料3】
○資料提供項目	<p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none">・NEAR センター市民研究員の募集及び交流懇談の集い ……【資料4】・平成23年度公開講座 ……【資料5】 <p>【松江キャンパス】</p> <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none">・護身術（Part1）について ……【資料6】
○行事予定	<p>【浜田キャンパス】</p> <hr/> <p>【松江キャンパス】</p> <hr/> <p>【出雲キャンパス】</p>

※会見及び資料提供に関する問い合わせは、資料に記載されている担当者あてにお願いします。

なお、行事予定の問い合わせは、以下のとおり、お願いします。

浜田キャンパス 総務課 TEL 0855-24-2200

松江キャンパス 管理課 TEL 0852-26-5525

出雲キャンパス 管理課 TEL 0853-20-0200

平成 23 年度 公立大学法人島根県立大学 重点項目

学部新設・学生確保

- 平成 24 年 4 月の看護学部開設に向けて着実に準備を進めます。(No.1)
- 看護学部設置 P R をはじめとした志願者数増につながる学生募集活動を積極的に行います。(No.6)

教育

- 各学部・学科の教育内容をより一層充実します。
 - 【総合政策学部】体系的カリキュラム構築及び学外授業充実を主眼としたカリキュラム再編検討 (No.13)
 - 【健康栄養学科】春季補講及び 1・2 年合同食物ゼミなど授業外教育の充実 (No.16)
 - 【保育学科】「神話のふるさと島根推進事業」に呼応した「ほいくまつり」の実施 (No.43)
 - 【総合文化学科】フィールドワーク学外実習の充実 (No.46)
 - 【看護学科・専攻科】看護師、保健師、助産師国家試験合格率 100% 達成 (No.87)
- 企業人材ニーズや卒業生の意見などを把握して、本学独自のキャリア教育に反映し、人材育成に力を入れている大学としてのブランドイメージ構築に取り組みます。(No.24)
- 質の高い F D 研修の実施や、授業アンケートによる授業改善の充実などにより、F D 実質化に向けた取り組みを推進します。(No.63、No.64)

学生支援・地域貢献

- 意欲ある学生の学修支援拡充のための新奨学金制度を平成 24 年度新入生から導入します。また、進学希望の高校生等へ積極的に P R します。(No.74、No.88)
- メディアセンター・図書館について、学生支援空間創出のため利用者視点に立った改善検討を進め、着実に実行します。(No.135)
- 地域貢献・地域連携を進めるため、各種団体等との連携強化、学生ボランティア活動の促進、公開講座の体制充実を行います。(No.109、No.110、No.113)
- 学生の健康調査結果等に基づく総合的な課題分析を実施し、学生のメンタルヘルスに係る取り組みの充実を進めます。(No.73)

研究・国際交流

- 北東アジア地域研究については、『北東アジア研究』『NEAR News』の定期刊行及び特集刊行を行い、研究成果の効果的な活用を図りながら、北東アジア学創成に向けた取り組みを推進します。(No.98)
- 北東アジア地域など海外大学との交流を積極的に推進します。(No.119、No.122)

大学運営・情報公開

- ホームページを中心として、大学の資源・魅力をこれまで以上に鮮度アップし効果的に情報発信します。(No.174)
- 自己点検・評価及び認証評価機関による評価を実施し、その結果を今後の魅力ある大学づくりに活用します。(No.170、No.171)

(注)文末の () 内は、平成 23 年度計画項目番号を記載しています。

平成23年4月13日
 公立大学法人島根県立大学
 担当：企画財務課 勝部
 電話：0855-24-2218

平成23年度公立大学法人島根県立大学当初予算の概要

●予算編成の考え方

島根県立大学は、平成19年度に3大学が統合・法人化し、3キャンパスの基盤づくりと教育研究の活性化に努めてきました。平成22年度においては、新たに制定した「島根県立大学憲章」により明らかにした理念に沿い、全学を挙げて積極的に大学運営に取り組んできたところです。

平成23年度は中期計画5年目で中間評価実施年度に当たるため、現計画の成果が問われること、また、合わせて次期中期計画に向けた準備に取り組むことを踏まえた法人運営を進めていく必要があります。

一方で、県の運営費交付金が効率化を促す趣旨から毎年度減額される中、平成23年度も引き続き効率化継続の方針が示されており、自律的な運営のための取り組み、即ち、経費削減努力、効果的な事業実施、自己財源の確保等がより一層求められます。

このため、平成23年度予算案は、「年度計画」及び「重点項目」を踏まえ、中期計画が着実に実行できるよう、特に、教育の質の向上、学生支援の充実、競争的外部資金事業の後継対策、研究の支援、業務の改善、大学環境整備の充実などに留意しつつ編成を行いました。

●予算の概要

1. 事業費総額

事業費総額は、38億85百万円で、前年度予算（30億77百万円）に比べ、26.3%増（808百万円増）となっています。

(単位:千円、%)

区 分	平成23年度当初	平成22年度当初	増 減	増減率
予算規模	3,885,348	3,077,473	807,875	26.3

2. 収入予算

(単位:千円、%)

区 分	平成23年度当初		平成22年度当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
運営費交付金(退手除)	1,517,403	39.1	1,534,800	49.9	▲17,397	▲1.1
学生納付金	976,226	25.1	970,957	31.6	5,269	0.5
県補助金(四大化除)	119,083	3.1	86,833	2.8	32,250	37.1
外部補助金等	49,273	1.3	76,346	2.5	▲27,073	▲35.5
寄附金	40,000	1.0	40,000	1.3	0	0.0
その他収入	84,869	2.2	81,352	2.6	3,517	4.3
計	2,786,854	71.7	2,790,288	90.7	▲3,434	▲0.1
運営費交付金(退手)	97,075	2.5	179,600	5.8	▲82,525	▲45.9
県補助金(四大化)	879,430	22.6		0.0	879,430	皆 増
積立金取崩収入	121,989	3.1	107,585	3.5	14,404	13.4
合 計	3,885,348	100.0	3,077,473	100.0	807,875	26.3

○運営費交付金は、退職手当の減▲83百万円、効率化（▲1.3%）による減額分▲32百万円、出雲キャンパス四大化関係経費分の増+17百万円等を見込み、総額で100百万円減（▲5.8%）となっています。

○県補助金（大規模修繕等の特殊要因経費に対し10/10補助）は、出雲キャンパス四大化事業分（879百万円）及び通常事業分（松江キャンパス耐震補強事業ほか3件）を予定し、912百万円増（+1049.9%）となっています。

- 外部補助金等は、平成21年度及び平成22年度に採択された文部科学省大学教育推進プログラム及び大学生の就業力育成支援事業（G P）の継続分3件や受託研究収入等を計上し、27百万円減（▲35.5%）となっています。
- 寄附金は、旧北東アジア学術交流財団寄附金事業に充てるための収入として、平成22年度と同額を計上しています。
- 積立金取崩収入は、「教育研究及び業務運営充実積立金」を財源として実施する事業に充てるための収入として計上し、14百万円増（+13.4%）となっています。
- ※目的積立金充当事業：教育向上、学生支援、G P後継、研究支援、業務改善、環境整備等に資する事業

3. 支出予算

(単位:千円、%)

区 分	平成23年度当初		平成22年度当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
教育経費	241,224	6.2	240,652	7.8	572	0.2
研究経費	131,787	3.4	135,696	4.4	▲3,909	▲2.9
教育研究支援経費	191,710	4.9	199,058	6.5	▲7,348	▲3.7
人件費(退手除)	1,664,131	42.8	1,645,868	53.5	18,263	1.1
一般管理費	449,879	11.6	445,549	14.5	4,330	1.0
施設費事業(四大化除)	119,083	3.1	86,833	2.8	32,250	37.1
受託事業等	80,340	2.1	107,366	3.5	▲27,026	▲25.2
予備経費	45,376	1.2	36,851	1.2	8,525	23.1
計	2,923,530	75.2	2,897,873	94.2	25,657	0.9
人件費(退職手当)	97,075	2.5	179,600	5.8	▲82,525	▲45.9
施設費事業(四大化)	864,743	22.3		0.0	864,743	皆増
合 計	3,885,348	100.0	3,077,473	100.0	807,875	26.3
特定財源支出除き	2,587,431		2,596,089		▲8,658	▲0.3

- 教育経費は、マイナスシーリングによる経費節減の一方で、就職活動支援金給付制度や出雲キャンパス四大化準備経費の増等により、1百万円の増を見込んでいます。
- 研究経費は、マイナスシーリングによる経費節減の一方で、北東アジア地域研究センター運営費の増等により、4百万円の減を見込んでいます。
- 教育研究支援経費は、マイナスシーリングによる経費節減の一方で、地デジ化対応経費や石見ケーブルビジョン加入経費の増等により、7百万円の減を見込んでいます。
- 人件費は、出雲キャンパス四大化に係る体制強化に伴う増や退職手当の減等により、64百万円の減を見込んでいます。
- 一般管理費は、マイナスシーリングによる経費節減の一方で、財務会計システム更新事業費の増等により、4百万円の増を見込んでいます。
- 施設費事業には、県補助金を財源とした出雲キャンパス四大化事業費や大規模修繕等の事業を計上しています。
- 受託事業等には、旧北東アジア地域学術交流財団寄附金事業費40百万円、文部科学省大学教育推進プログラム等（G P）継続事業分等を計上しています。
- 予備経費は、年度途中の緊急的な支出に備えるため、45百万円を計上しています。
- 支出総額は、808百万円増（+26.3%）となっていますが、特定財源による支出を除くと25億87百万円で、前年度に比べ9百万円減（▲0.3%）となっています。

※特定財源：運営費交付金(退職手当分)、県補助金、外部補助金等、旧NEAR寄附金、積立金取崩収入

4. 主な事業の概要

(1) 学部新設・学生の確保

●看護学部設置（四年制大学化）事業（本部） <u>（新規）</u>	879,430 千円
<ul style="list-style-type: none"> 平成24年4月看護学部開設に向けて、必要となる講義室・実習室・演習室・自習室・学生ラウンジ・研究室等を整備するための施設の増改築等及び学部設置に係る準備業務を実施する。 	

●看護学生募集緊急対策事業（出雲C）	900 千円
<ul style="list-style-type: none"> 看護学部開設に伴い、新学部への進学志願者を確保するための積極的な宣伝・広報及び一般県民向けの周知活動を拡充して実施する。 	

(2) 教育の充実、向上

●島根県立大学「未来ゆめ基金（仮称）」事業（本部） <u>（新規）</u>	798 千円
<ul style="list-style-type: none"> 学生に対する教育内容充実に資するため「未来ゆめ基金（仮称）」を創設し、本学卒業生、一般県民及び地元企業等から幅広く寄附金を受け入れる仕組みを整備し、広報活動や寄附者の掘り起こしを積極的に実施する。 	

●求人開拓調査事業（本部） <u>（新規）</u>	1,008 千円
<ul style="list-style-type: none"> キャリアセンター教職員が、「企業が求める人材ニーズ」等を把握し、本学独自のキャリア教育構築及び学生の就職活動支援のため、企業関係者や就職指導専門家等との意見交換、情報収集活動を実施する。 	

●「学修と就業の一貫性を構築するキャリア教育」事業（浜田C）	16,662 千円
<ul style="list-style-type: none"> 初年次から地域の職業人と接して学習目的を明確化し、自ら職業に就く能力を身につけることを目的として、少人数グループで地域に出て地域の課題を発見する「フレッシュマン・フィールド・セミナー」や先輩学生ピアサポーターによる「初年次サポート制度」といった教育の充実及び就職試験対策、キャリアカウンセリング、卒業生調査に基づく就業支援を一体的に取り組む。（H22採択「大学生の就業力育成支援事業」） 	

●「ほいくまつり」事業の拡充（松江C）	1,130 千円
<ul style="list-style-type: none"> 保育学科学生が授業成果を自主的取組みとして企画・発表することにより具体的な学習機会を確保し、合わせて地域の親子に直接ふれあい楽しむことで地域貢献も行う。 特に、平成23年度からの神話のふるさと「島根」推進事業に呼応し、出雲神話関連の取り組みを加える。 	

●フィールドワーク学外実習の充実（松江C） <u>（新規）</u>	131 千円
<ul style="list-style-type: none"> 総合文化学科学生がさまざまな学外実習を通じて海外・地域との交流を図ることにより、地域文化の理解や地域資源が溢れるフィールドを活かした学びを深め、大学憲章に掲げる人材育成に取り組む。 	

●保健師助産師看護師国家試験対策事業（出雲C）	1,543 千円
<ul style="list-style-type: none"> 国家試験合格率100%達成を目指し、多様化する学生の課題に対応するための学習支援として、試験対策セミナー等の実施や試験関連情報の提供を行い、また、教職員がより円滑に連携して学生のバックアップに努める。 	

(3) 学生支援・地域貢献の充実

<p>●意欲ある学生に対する学修支援のための新奨学金給付制度（全学）<i>（新規創設）</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲ある学生への学修支援を行うため、現在の授業料減免制度等を見直し、経済的支援としての学修支援奨学金、入学時奨学金及び成績優秀者奨学金の3メニューからなる新たな奨学金給付制度を創設し、平成24年度入学生から適用するため、進学希望の高校生等へ積極的にPRを行う。 	
<p>●就職活動支援金給付制度（全学）<i>（新規）</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動期間の長期化に伴う学生の経済的負担を軽減を図り、合わせて学生と大学の連携強化による就職指導等の充実を図るため、就職活動支援金の給付を実施する。 	3,000 千円
<p>●キャンパスマイレージ事業（全学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア活動やエコ活動をポイント化して蓄積し、地域活動及び社会的な実践活動を通じた社会貢献と学びの促進の動機付けとする。また、学生の活動実績はデータとして蓄積し、学内外へ情報発信したり本人の振り返りに活用する。 ・蓄積されたポイントは、各キャンパスの創意工夫で表彰などにより学生に還元する。 	965 千円
<p>●学生地域ボランティア活動推進事業（全学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が地域ボランティア活動等に安心して参加することができるよう、活動に際して発生する事故等に対する保険の保険料を大学が負担するとともに、窓口機能の強化、学生との意見交換会の開催等を通じて、学生ボランティア活動の推進を図る。 	660 千円
<p>●メディアセンター・図書館利用環境改善検討等経費（本部）<i>（新規）</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まとめた「現状と課題、今後のあり方報告書」をもとに、学生支援空間創出のため利用者視点に立った改善検討を進める。 ・松江キャンパス図書館においては、十分ではないパソコン・インターネット利用環境を充実するため、早急に対策を実施する。 	2,072 千円
<p>●学生のメンタルヘルス充実のための総合分析事業（本部）<i>（新規）</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のメンタルヘルスの課題を総合的に分析し、適確な学生支援を行うとともに関係スタッフの役割を明確にし円滑な連携を図るため、精神健康調査スタッフを拡充する。 ・心の健康状態をチェックするGHQや健康調査結果を早期に集計し、学生のメンタルヘルスの課題を総合的に分析し、的確な事後指導、学生支援を行う体制を拡充する。 	261 千円
<p>●就職活動サポートプログラム事業（浜田C）<i>（新規）</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏で就職活動を行う学生を支援するため、東京都心部にキャリアセンタースタッフが就職相談を行う拠点施設（レンタルスペース）を確保する。 	420 千円
<p>●公務員試験対策講座実施支援事業（浜田C）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験合格を目指す学生のための試験対策専門講座「公僕学舎」を開設する島根県立大学後援会に対して実施経費に係る補助を行う。 	2,260 千円
<p>●公開講座「椿の道アカデミー」体制充実経費（松江C）<i>（新規）</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで多くの地域住民に受講していただいている「椿の道アカデミー」について、会員制度を導入するとともに担当窓口体制を充実し、新講座開設など新たな取組みを積極的に展開する。 	600 千円

(4) 研究の活性化・国際交流の推進

●北東アジア地域研究センター研究能力向上・維持のための活動経費(新規) 1,000 千円

- ・NEARセンターにおける研究能力をこれまで以上に向上・維持するため、研究員が一体となって北東アジア地域の調査・研究・交流を実施するための活動経費

●北東アジア地域研究センター事業 4,915 千円

- ・大学院生の教育・指導の充実を図るため、GP事業「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に選定された「実践的北東アジア研究者の養成プログラム」の後継事業である「市民研究員との共同研究助成事業」及び「競争的課題研究助成プログラム」を継続実施する。

●大学院特別資料室図書書誌情報整理体制の充実(浜田C)(新規) 4,761 千円

- ・外国語研究図書をはじめとした数多くの大学院特別資料室図書について、速やかに書誌情報を整理し図書システムに登録するため、必要な体制を整備する。

●海外研修奨学金(全学) 10,700 千円

- ・本学の特色である「国際的な視野を持った人材養成」実現のため、海外研修奨学金制度を継続し、研修を通じて異文化に深くふれ合うことで、大学のグローバル化を意識した学修の動機づけを図る。(研修希望者見込)180名

(5) 大学運営・情報公開の充実

●島根県立大学・短期大学部認証評価実施経費(全C)(新規) 5,402 千円

- ・島根県立大学においては、学校教育法に基づき7年に一度受審する認証評価に向け、委員会審議や申請書提出などの諸準備を実施する。(平成24年度認証評価実施)
- ・島根県立大学短期大学部においては、平成22年度に実施した自己点検・評価報告を受け、認証評価機関による認証評価を受ける。

●財務会計システム更新事業(本部) 28,000 千円

- ・平成23年度にリース期間が終了する財務会計システムについて、操作性・利便性が向上し業務効率化も図れるようシステム設計を行った上で更新する。

(6) 県特殊要因経費補助金(大規模修繕等) 998,513 千円

●看護学部設置(四年制大学化)事業分(再掲)

- ・施設設備増改築工事費 864,743 千円
- ・準備経費 14,687 千円

●通常分

- ・浜田C 本部棟エアコン更新事業 26,767 千円
- ・松江C 3号館南棟耐震補強事業、屋上防水改修事業、自動火災報知機設備改修事業 92,316 千円

(7) 外部資金関係—H21・H22採択文部科学省大学教育推進プログラム等（GP）継続分

●「情報教育におけるステップ式学習プログラム」 （新教育GP・H21～23）（浜田C） ・ステップ式学習テキスト開発、情報科目等再編により学生の「実証科学」力を向上	6,065 千円
●「学修と就業の一貫性を構築するキャリア教育」（再掲） （就業力GP・H22～26）（浜田C） ・初年次から地域の職業人と接して学習目的を明確化し、自ら職業に就く能力を身につける	16,662 千円
●「おはなしレストラン、はじまるよ！」 （新教育GP・H21～23）（松江C） ・絵本の読み聞かせを通して学生の人間力を育成するとともに地域へ貢献	12,047 千円

(8) 旧北東アジア地域学術交流財団（旧NEAR財団）寄附金事業 40,000 千円

〔主な事業〕	
・北東アジア学研究プロジェクト事業	1,000 千円
・北東アジア学図書出版事業	2,500 千円
・共同プロジェクト研究助成事業	6,500 千円
・地域貢献プロジェクト助成事業	3,900 千円
・学術図書出版助成事業	2,000 千円
・国際学術交流事業	4,885 千円
・外国人研究員等招へい助成事業	700 千円
・交流県留学生教育支援事業（奨学金、語学研修）	8,380 千円
・大学院留学生教育支援事業（奨学金、語学研修）	8,635 千円
・国際文化交流促進事業	1,500 千円

【資料】平成23年4月13日(水)
島根県立大学 浜田キャンパス
担当 地域連携推進室 岡田、島田
電話 0855-24-2201

「浜田キャンパスサポーター制度」の創設及び募集について

1. 目的

島根県立大学は「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を目指し、様々な活動を行っております。地域の皆さまには、日頃本学が実施するイベントに参加し、大学施設の利用をいただいておりますが、さらにこれらを促進することで、大学をより身近な存在として、また、大学の諸活動を応援いただけるよう『浜田キャンパスサポーター制度』を創設いたしました。

サポーターに登録いただきますと、大学イベント情報の提供をはじめ、様々な特典を受けることができます。たくさんのご応募をお待ちしております。

2. 申込資格、会費及び有効期限

- ・どなたでも申し込みいただけます。
- ・年会費 500 円（ただし、平成 23 年度は無料）、会員証を発行します。
- ・有効期限は当該年度末までとし、次年度は更新手続きが必要になります。

3. 申込方法等

- ・平成23年5月1日以降、随時、郵送、FAX、電子メール等で受け付けるほか、6月1日以降に開催されます公開講座の会場でも受け付けます。
- ・申込書様式、その他詳細については本学ホームページ、『広報はまだ』の県大ページ、公開講座当日に配布するチラシ等でご案内の予定です。

4. サポーターの特典

- ・公開講座の事前申込みが不要となり、会員証を受付に提示いただくだけで受講可能となります。
- ・会員証は「大学図書館の利用カード」を兼ねるため、本会員証で図書館への入館及び本の貸出サービスがご利用いただけます。
- ・公開講座をはじめとする「大学のイベント情報」をダイレクトメールまたはメールマガジン等でお知らせいたします。
- ・一年間に一定の回数以上公開講座を受講された方に「修了証」を発行いたします。
- ・公開講座等に対するご要望をお聞きする場として、「教員との意見交換会」にご案内いたします。

平成23年4月13日
島根県立大学浜田キャンパス
事務局交流研究課 佐草
TEL (0855) 24-2201

**NEAR センター市民研究員の募集 及び
NEAR センター交流懇談の集いの開催について**

島根県立大学では、平成23年度「北東アジア地域研究センター市民研究員」を募集しています。

「北東アジア地域研究センター市民研究員」制度は、本学の北東アジア地域研究センター（NEAR センター）の研究活動に広く一般市民の参加を求め、地域の研究者や有識者との連携を強化することにより、NEAR センターの研究活動の活性化並びに大学院教育の充実を図ることを目的として、平成18年度に創設したもので、全国的にも例のないユニークな制度です。また、研究を通じて本学の地域貢献活動の一翼も担っていただいております。

今年度（平成23年度）から新たに、市民研究員代表委員を中心とした「市民研究員グループ・リサーチ・サロン（※裏面参照）」をスタートさせ、市民研究員主体の交流・研究活動の場として生まれ変わります。

この「北東アジア地域研究センター市民研究員」の概要等を説明させていただくことを主旨として、“NEAR センター交流懇談の集い”を下記のとおり開催します。

記

1. 日 時 平成23年4月23日（土） 13:00～17:00
2. 場 所 島根県立大学交流センター 2F コンベンションホール
3. 内 容（予定）
北東アジア地域研究センター（NEAR センター）についての概要説明
北東アジア地域研究センター（NEAR センター）市民研究員制度説明
参加者の自己紹介
前年度市民研究員登録者の体験談
4. その他 入場無料
参加申込書による申込が必要です。

本内容については本学ホームページにも掲載しています。

平成 23 年 4 月 13 日
島根県立大学浜田キャンパス
事務局交流研究課 佐草
TEL (0855) 24-2201

市民研究員グループ・リサーチ・サロンについて

「市民研究員グループ・リサーチ・サロン」は、市民研究員が主体となって複数の研究グループを組織し、関連する領域の共同研究や情報交換、NEAR 研究員・大学院生と密度の濃い学術交流を行うための集いです。従来の市民研究員制度の在り方を市民研究員アドバイザーの皆さんと一年間検討した末に、今年度から新たに取組むべき活動として運営されるものです。

その活動内容は、市民研究員の皆さんの協議によって様々に形作られることと思いますが、概ね次のような流れで進行していくことを想定しています。

まず、5月21日（土）開催の全体会で自らの関心分野を考慮しつつ、4つ程度のテーマを掲げるグループ（「北東アジア地域の人的交流」「地域の中の北東アジア」「北東アジア地域の歴史と文化」「北東アジア地域の現代的課題」の4グループを想定）に分かれます。なお、このグループ分けは厳格なものではなく、以後の参加にあたっては移動・かけ持ちを行ってよいものとします。

次に、市民研究員代表委員を中心に、それぞれのグループが展開する活動内容や集会の日程など研究計画を協議します。たとえば、各グループのテーマに即し、何らかの課題を設定した上での共同研究、個人の研究発表を中心とする研究会、共通の関心を探るための読書会、NEAR 研究員や院生を巻き込む形の勉強会など、自由に構想していただきます。また、各グループの集会場所として休日も利用可能な2ヶ所（「北東アジア学創成室」「NEAR センター研究交流室」）を用意していますので、各グループの都合に合わせて、定期的に会合を行うことが可能です。

こうしてグループごとの活動内容を練りながら、1月の市民研究員による研究報告会を一つの成果報告の場として目指し、約半年間の活動を行っていただきます。

このグループ・リサーチ・サロンの活動は今年度が初めての試みであり、産みの苦痛や紆余曲折が予想されますが、初めての試みであるからこそ、これまでになかった市民研究員の皆さんの横のつながりと、NEAR 研究員・院生との有機的な連携が発揮され、創造性豊かな活動が展開されるものと期待しております。

北東アジア地域研究センター市民研究員のイメージ

北東アジアに興味あり

市民の皆さん

地域の研究に興味あり

NEARセンター市民研究員

市民研究員に登録すると...

- ・市民研究員全体会参加
- ・グループ・リサーチ・サロン参加
- ・NEARセンターの各種研究会参加
- ・メディアセンター(図書館)利用
- ・学内刊行物各種贈呈
- ・研究成果を年度末報告書に掲載などの機会をご提供

NEARセンター市民研究員

市民研究員は何をするの？

- ⇒研究・交流活動を展開します
- ☆市民研究員全体会、グループ・リサーチ・サロンに参加ください
- ☆市民研究員相互に、またNEARセンター研究員や本学教員、大学院生たちと北東アジアや地域の課題などを話題に気軽に語り合しましょう

交流懇談の集い (23.4.23)

全体会

(23年度は計3回の開催を予定)



大学院生



NEARセンター
研究員・教員

**院生・研究員・教員と
関心分野で意気投合！**

**共同研究グループ
を作ってください**

6月10日までに共同研究計画書をご提出ください

選考・採択

共同研究経費の一部を助成します

フィールドワークや
文献調査

たとえば、
この助成金で
グループで活動

北東アジア地域へ
研究調査

**市民研究員が相互に
関心分野で意気投合！**

4つのサロン(研究グループ)で
共同研究？勉強会？読書会？
茶話会？.....etc.

グループ・リサーチ・サロン

研究資金獲得の助走	地域への政策提言	個人研究の深化	成果発表会	年次報告書
-----------	----------	---------	-------	-------

☆共同研究グループには市民研究員の中から共同研究に参画していただき市民の立場からの知識を院生に与えることで、大学院教育にご協力頂きます。今年度末(3月)に共同研究の成果をご報告頂きます。
(グループ構成:市民研究員+院生+研究員・教員)

☆各研究グループには、今年度末(1月)に活動の成果をご報告頂きます。また、この際には従来通り個人の発表も受け付けます。

市民研究員グループ・リサーチ・サロン

NEAR センター
研究員

大学院生

交流・連携

市民研究員代表委員／連絡会

市民研究員

大学院生と市民研究員の共同研究

グループ・リサーチ・サロン



北東アジア地域の人的交流

【例】北東アジアを舞台に活躍した日本人、観光等の人的交流など



地域の中の北東アジア

【例】山陰/石見地域と北東アジア地域、地域に眠る北東アジアのひと・もの・ことなど



北東アジア地域の歴史と文化

【例】史資料（古文書）発掘・解読、北東アジアの言語、宗教など



北東アジア地域の現代的課題

【例】北東アジア諸国の経済関係・企業活動・外交・環境問題・福祉など

研究・活動成果

研究資金
獲得の助走

個人研究の
深化

地域への
政策提言

成果報告会

年次報告書

地域とともに発展を目指す“開かれた研究機関”

“NEAR センター交流懇談の集い”

北東アジア地域研究センター(NEARセンター) 市民研究員制度

みなさんの興味と知識を通じて研究センターで交流しませんか？
市民研究員にぜひご登録ください。

4/23 “NEAR センター交流懇談の集い”

まずは市民の仲間、大学院生、NEAR センター研究員、
本学教員と懇談。
ぜひ、御参加下さい。

北東アジア地域研究センター(NEARセンター) “グループ・リサーチ・サロン”

4つのサロン（研究グループ）で共同研究？勉強会？読書会？…。
市民研究員・大学院生・教員と共同研究に取り組むこともあります。

「北東アジア地域研究センター市民研究員制度」のご説明をかねて、“NEAR センター交流懇談の集い”を下記の通り開催いたします。

記

- と き 2011年4月23日（土）13:00～
 - ところ 島根県立大学交流センター2F コンベンションホール
 - 次 第 NEAR センター長挨拶、NEAR センター概要・市民研究員制度説明、参加者自己紹介、市民研究員の体験談など
 - お問い合わせ 〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
島根県立大学事務局交流研究課
- TEL. 0855(24)2201; FAX. 0855(24)2208; E-Mail: tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

●島根県立大学北東アジア地域研究センター

■ご案内■

浜田キャンパスサポーターを募集します



地域の皆さまに、本学の公開講座をはじめ各種イベントにご参加いただき、大学をより身近な存在として感じてもらうとともに、大学の諸活動を応援していただくため、浜田キャンパスサポーター制度を設けました。大学イベントのご案内など様々な「特典」を用意しております。たくさんの皆さまからの申込をお待ちしております。

浜田キャンパスサポーターになっていただくと以下の《特典》があります

- 会員証で次のサービスが受けられます。
公開講座の事前申込みが不要になり、会員証を受付に提示するだけで受講いただけます。
大学図書館の利用カードとして、本会員証で図書館への入館及び本の貸出サービスがご利用いただけます。
- 公開講座をはじめとする大学のイベント情報をダイレクトメールまたはメールマガジン等でお知らせいたします(希望される方のみ)。
- 一年間に一定の回数以上受講された方に「修了証」を発行いたします。
- 公開講座等に対するご要望をお聞きする場として、教員との意見交換会にご案内いたします。
(サービスメニューについては、随時追加していく予定です)

【会費】 年会費 500 円 (ただし平成23年度は無料です)

有効期限は当該年度末までで、次年度は別途更新手続きが必要となります。
浜田キャンパスサポーターにご加入されなくても、従来どおり公開講座を受講することができます。
詳細については本学ホームページ、「広報はまだ」の県大ページ、講座当日に配布するチラシ等でご案内の予定です。

■刊行物のご案内■

島根から考える、“誇り”の取り戻し、“暮らし”の作り直し

過疎・高齢化の進む地域社会をどのように再生するか、小規模・高齢化の進む集落をいかにして支援するか。島根県内各地で地域再生・集落支援の現場に携わっている方々のまなざしから事例を記述し、これらの問いについて考えます。

■「島根発！ 中山間地域再生の処方箋」
— 小さな自治・人材誘致・小さな起業 —

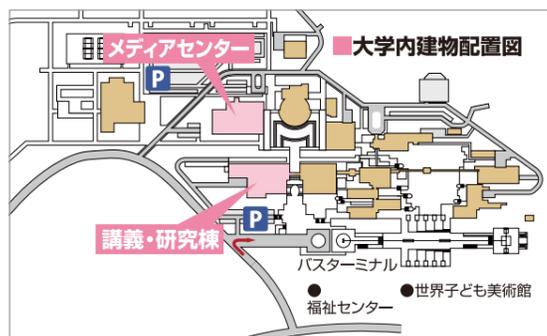
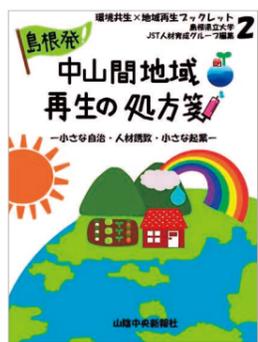
【主な内容】

- ・集落支援
- ・地域をつなぐ人材
- ・社会起業
- ・地域に根ざした想いと技

■編集
島根県立大学 JST 人材育成グループ

■発行所
山陰中央新報社

■定価：1,000 円 (本体 952 円+税)
書店でお求めできます。



申込方法

「はがき」「FAX」「電子メール」でお申し込みください。

必要事項

- 講座科目No. (①～③でお知らせください)
 - 住所
 - 氏名 (ふりがなも併記してください)
 - 電話番号 (急な変更等の連絡に使用します)
- ※受講決定通知は原則行いませんので、当日、直接会場にお越しください。
定員は設けませんが、準備の都合上、事前申込をお願いします。

ワンコイン(100円)バス時刻 大学線 (抜粋)

浜田駅	→	大 学	大 学	→	浜田駅
12:31		12:45	15:00		15:11
13:00		13:11	15:30		15:44
17:45		17:56	20:00		20:11



〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2 事務局交流研究課
TEL : 0855-24-2201 FAX : 0855-24-2208
E-Mail : kokai@admin.u-shimane.ac.jp

島根県立大学 浜田キャンパス

THE UNIVERSITY OF SHIMANE



平成23年度



21世紀・地球講座

受講無料

Calendar 月別講座予定表

6 june	1(水) 人が集うまちづくり ～福祉は誰のものか(No.1)	10 october	5(水) 明日教室で使える英語指導法(No.18)
	15(水) 出雲人が石見で元気になった 「喜ばれるという喜び」(No.2)		12(水) 日本語はどんな言語か文法編① (No.13)
	22(水) 地域を元気づける「アート」の力(No.6)		19(水) A級グルメのまちを目指す邑南町の取り組み(No.4)
	29(水) 島根文化史断章① (No.10)		20(水) モンテニューについて考える(No.23)
			26(水) 日本語はどんな言語か文法編② (No.14)
7 july	6(水) 国際ニュースを見る眼(No.7)	11 november	2(水) Incorporating cooperative learning into the classroom (No.19)
	13(水) 地域思想の水脈を訪ねて(No.21)		5(土) 外国語としての日本語の教え方(文法)(No.15)
	20(水) 島根文化史断章② (No.11)		9(水) 島根の食文化(No.8)
	27(水) 島根文化史断章③ (No.12)		16(水) 外国語としての日本語の教え方(文字・語彙)① (No.16)
			24(水) Incorporating blogging into your teaching (No.20)
8 august	3(水) ヨソモノが見つけた 「奇跡の里・石見」(No.3)		30(水) 外国語としての日本語の教え方(文字・語彙)② (No.17)
9 september	29(水) 身体の健康のために(No.9)	12 december	14(水) 老いの楽しみ：キケロー『老年について』を読む(No.22)
	こころの健康のために(No.9)		21(水) 山里起業から10年～その光と影・未来へ(No.5)

島根県立大学のホームページからお申し込みできます。

島根県立大学 検索 「地域連携推進センター」→「公開講座」→「簡単申し込み」

講座Ⅰ 石見に生きる～石見の元気人が話す

場所：鳥根県立大学講義・研究棟中講義室3

No	講師	講座名	概要	日時
1	室崎富恵 (いわみ福祉会理事長)	人が集うまちづくり ～福祉は誰のものか	一般的に、「福祉」と「まちづくり」は、それぞれ別個に検討すべき政策・課題と認識されがちです。そして、両者とも実態として、関心の多くはハード整備に集まってきました。しかし、もともとこれらは住民レベルでは連動しているものであり、そこに暮らす人々の「生活の質」をソフト面でいかに保証していくかを考えることが特に重要な視点と言えるのではないのでしょうか。そこで、福祉の観点からまちづくりの重要性とその具体的な施策のあり方について考えます。	6月1日(水) 18:15～19:45
2	石橋留美子 (匹見町まちづくり コーディネーター)	出雲人が石見で元気になった 「喜ばれるという喜び」	鳥根県人でありながら、その存在も名前も知らなかった匹見町。町誌編さんの仕事きっかけで匹見町が大好きに。不思議な縁がつながって、まちづくりコーディネーターに就任。「喜ばれるという喜び」をキーワードに、田舎体験イベントやボランティア制度を通じた交流事業の取組や、匹見町の魅力についてお話しします。	6月15日(水) 18:15～19:45
3	かわべまゆみ (NPO法人結まるプラス理事長)	ヨソモノが見つけた 「奇跡の里・石見」	東京から石見に1ターンしてからの12年は、日々、驚きと感動と発見の連続でした。「日本に、田舎は数あれど、かくも美しき地域はなし。まさに、田舎の中の田舎、極上の田舎・奇跡の里発見!」そう思うほどでした。今回は、石見の真の魅力とこれからの可能性について、ヨソモノであり、さらには都会人の視点も含めて提案していきます。	8月3日(水) 18:15～19:45
4	寺本英仁 (邑南町商工観光室)	A 級グルメのまちを目指す 邑南町の取り組み	2010年に邑南町は農商工連携等ビジョンを策定しました。A 級グルメのまちをめざして、食の専門家を招いた交流活動を重ね、都会からの1ターンも増えています。まちぐるみの「食」の産業振興を進めてきた邑南町の歩みと今後の展望について講義します。	10月19日(水) 18:15～19:45
5	岩井賢朗 (南真砂代表取締役)	山里起業から10年 ～その光と影・未来へ	あえて中山間地域で地域名を会社名に冠し住民有志で起業した南真砂(まさご)の10年間の彷徨。益田市内の食品製造業者による益田「中世の食」再現プロジェクトにおいて「歴史」をキーワードに連携する中で見えてきた希望。失敗も含めた体験をもとに、今後石見で小さく生き抜いていくための課題の整理と、解決への糸口を受講者の皆さんとともに探ります。	12月21日(水) 18:15～19:45

講座Ⅱ 社会を学ぶ～国際・地域・文化

場所：鳥根県立大学講義・研究棟中講義室3

No	講師	講座名	概要	日時
6	八田典子 (浜田キャンパス)	地域を元気づける 「アートの力」	近年、国内外の各地で、地域に根ざした多様な「アートプロジェクト」が展開され、注目されています。「ミンスター彫刻プロジェクト」「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」等のユニークな事例を挙げながら、地域を元気づける「アートの力」について考えてみたいと思います。	6月22日(水) 18:15～19:45
7	赤坂一念 (浜田キャンパス)	国際ニュースを見る眼	国際ニュースを見る時、どのような視点で見れば良いのか。あるいは何に注目すれば、国際ニュースの内容をより深く理解できるのか…この講座では、国際ニュースとどう向き合えば良いのかなどについて分かりやすく解説します。この講座を受講した後は、国際ニュースを見る眼がきっと変わります。	7月6日(水) 18:15～19:45
8	中塚敏之 (松江キャンパス)	鳥根の食文化	鳥根県東部(出雲地域)は江戸時代松平家(親藩)の領地としてその食文化が受け継がれてきています。中でも松江藩七代藩主の松平治郷(不昧)公は茶の湯を極め和菓子、蕎麦会席等を広めたと伝えられています。今回は蕎麦を中心に、和菓子、雑煮等の紹介と他県との食文化の比較についてお話しします。	11月9日(水) 18:15～19:45

講座Ⅲ 身体とこころの健康 (キャンパス連携講座)

場所：鳥根県立大学講義・研究棟中講義室3

No	講師	講座名	概要	日時
9	福澤陽一郎 (出雲キャンパス)	身体の健康のために	健康ブームで、健康食品やサプリメントに関心が集まっています。身体の健康のためには、まずは、運動・栄養・休養を柱に生活を振り返り、自分の健康チェックをきちんと行うことです。生活習慣病と予防について、身近な話題でお話しします。	9月29日(木) 14:00～16:00
	川中淳子 (浜田キャンパス)	こころの健康のために	心身の不調は、「ストレス」に起因することが多いようです。心身の健康のためには、自分のこころに目を向けたり、自分の置かれている環境を振り返ってみたりすることが役立ちます。心身の健康やカウンセリングについて、具体的にお話しします。	

講座Ⅳ 神々の国しまね～古事記1300年

場所：鳥根県立大学講義・研究棟中講義室3

No	講師	講座名	概要	日時
10		鳥根文化史断章①	日本の文化史上、鳥根が特別な意味をもった3つの事柄について考える。	6月29日(水) 18:15～19:45
11	飯田泰三 (浜田キャンパス)	鳥根文化史断章②	①記紀神話における出雲 (スサノヲのオロチ退治や大国主の国造りと国譲りの神話が意味するもの) ②神本人麻呂と石見 (人麻呂の石見相聞歌と終焉の地の謎) ③ラフカディオ・ハーンと松江 (キリスト教ヨーロッパを脱出してクレオール文化に親しみ、松江に安住の地を見出したハーンの軌跡が意味するもの)	7月20日(水) 18:15～19:45
12		鳥根文化史断章③		7月27日(水) 18:15～19:45

講座Ⅴ 日本語と日本語教育

場所：鳥根県立大学講義・研究棟中講義室3

No	講師	講座名	概要	日時
13	犬塚優司 (浜田キャンパス)	日本語はどんな言語か 文法編①	日本語はどんな言語なのか。今回は、日本語の文法的な特徴を、英語・中国語・韓国語などの言語と比べながら、わかりやすく説明します。私たちがいつも話している日本語が、どのような文法規則によって形作られているかを考えていきます。	10月12日(水) 18:15～19:45
14		日本語はどんな言語か 文法編②	「-た」、「-ている」や「-てある」などの用法をもとに、日本語では「過去」「現在」「未来」がどのように表現されるか、動作や状態が時間の流れの中でどのように表現されるか、を考えていきます。	10月26日(水) 18:15～19:45
15	中園博美 (鳥根大学外国語教育センター)	外国語としての 日本語の教え方 (文法)	「ここへ来てください」、「これは、きれくありません」、「日本で留学しました」…などに見られる誤りに対して、どのように説明すれば学習者は文法を正しく理解してくれるでしょうか。今回は、主に初級レベルで扱われる文法事項をとりあげ、その特徴や教え方、教材などについてお話しします。	11月5日(土) 13:15～14:45
16	小林明子 (浜田キャンパス)	外国語としての日本語の 教え方 (文字・語彙) ①	日本語の語彙には、昔からの日本の言葉である和語、中国から来た漢語、主として欧米から取り入れた外来語などがあります。さらに、これらの語彙を書くときには、ひらがな、カタカナ、漢字など数種類の文字を使い分けて書きます。このように複雑な文字、語彙を日本語学習者はどのように学んでいるのでしょうか。本講座では、日本語の文字・表記や語彙の特徴、その教え方、教材などについてお話しします。	11月16日(水) 18:15～19:45
17		外国語としての日本語の 教え方 (文字・語彙) ②		11月30日(水) 18:15～19:45

講座Ⅵ 英語と英語教育

場所：鳥根県立大学講義・研究棟中講義室3

No	講師	講座名	概要	日時
18	ケイン エレナ アン (浜田キャンパス)	明日教室で使える 英語指導法	中学校の英語の先生や小学校の外国語活動に関わっておられる方、英語教育に興味をお持ちの方のための講座です。英語の実践的な指導法について考えましょう。すぐに使える活動を紹介いたします。本講座は平易な英語で行いますし、スライドには日本語による説明を付けますので、日本語話者の方も英語話者の方もふるってご参加ください。	10月5日(水) 18:15～19:45
19	マニング クレイグ トーマス (浜田キャンパス)	Incorporating cooperative learning into the classroom	This presentation is for teachers. It will be done mostly in English. After attending this presentation, you will have a better theoretical understanding and practical knowhow to effectively use students as a resource for learning in your classroom, regardless of what subject you teach. There will be activities to provide you with experiential knowledge as each new idea is introduced. For best results, bring your peers and colleagues with you. この講座は英語で行われますが、実践的な作業を通して共同学習について学べる参加型の分かり易い講座です。	11月2日(水) 18:15～19:45
20	ヘネベリー スティーヴン (浜田キャンパス)	Incorporating blogging into your teaching	This presentation is for teachers. It will be done mostly in English. After attending this presentation you will have a better understanding of how to incorporate blogging into your teaching practice. The presentation will discuss different aspects of blogging for teachers, such as professional development, Personal Learning Networks (PLN), and blogging in the classroom.	11月24日(木) 18:15～19:45

講座Ⅶ 本と図書館のWaku²(わくわく)ツアー

場所：鳥根県立大学メディアセンター多目的演習室

No	講師	講座名	概要	日時
21		地域思想の水脈を訪ねて	なぜ地域を大切にするのか？ 私たちにとって地域で生活することはどんな意味があるのか？ こうした問いに答えやヒントを与えてくれる人々の思想を訪ねたいと思います。宮沢賢治、柳田国男、Th. ジェファソン、J. メーザー、M. ハイデッガーなどをとりあげ、かれらのオリジナルの章句を読みながら、その思想を生んだ背景と私たちに与えた意味を考えてみたいと思います。	7月13日(水) 18:15～19:45
22	村井洋 (浜田キャンパス)	老いの楽しみ：キケロー 『老年について』を読む	団塊の世代の退職期に合わせたかのように、書店には老年期を扱った数多くの「老年本」が溢れ出しました。まず、それらの書物の中での古典中の古典であり、ローマの哲学者で政治家キケローの手になる『老年について』を読みます。あわせて、エリックソン(心理学)、上野千鶴子(ジェンダー論)、フォースター(文学)など、現代人によって書かれた老人論のいくつかを取り上げることになります。	12月14日(水) 18:15～19:45
23	渡部望 (浜田キャンパス)	モンテーニュについて考える	モンテーニュはフランスの16世紀、カトリックとプロテスタントが覇権を争う戦乱の時代を生き、政治にコミットしながらも、自分自身と時代に関する深い思索を、静かに「エッセー」に書きとどめました。今回の講座ではそうした彼の思索の一端をご紹介しますと思います。	10月20日(木) 18:15～19:45

23年4月13日
島根県立大学短期大学部
出雲キャンパス
担当者：飯島久美子
(教務課)
電話 0853-20-0200(代)

(表題) 護身術 (Part1) について

1. 目的・理由 犯罪に巻き込まれることなく
安全な学生生活を送るため
2. 日時・期間 4月20日(水) 9:15~10:15
3. 場所・会場 島根県立大学出雲キャンパス
体育館
4. 主催者・施行者・企画者
出雲キャンパス(学生生活委員会) 主催
施行者：出雲警察署 山根 一 様
かわと交番 古田周一 様 ほか
5. 内容・対象
護身術の実際 約60分(体育館)
6. 出席者・参加人数
本学新生および在校生 教職員 約180名

7. これまでの経緯や今回の特徴など

本学では防犯対策として、防犯灯の増設や、警察・地域住民の方の協力によるパトロール、警察による一人暮らしの女性のアパート防犯診断などを実施している。昨年度も4月初旬の入学前のオリエンテーションにおいて、新入学生を対象に防犯の講演を、出雲警察署、かわと交番の方にして頂いた。同月下旬には、実際に体で覚える護身術について新生・在校生約180名が参加し、実際に学ぶ取組を実施した。また、入学後半年経過し、学生生活に慣れた10月にも、再度防犯に対する意識を高めていくことを目的とし護身術の実際をして頂いた。

今回も昨年度から継続した、入学前防犯講演に続く護身術の企画である。